



私たちにできること

～定期的な検診と自己触診のすすめ～

年々増加する乳がん。

現在、日本では毎年約4万人の女性が乳がん罹患し、また毎年1万人の女性が乳がんで命を奪われています。単純に言うと日本女性16人に1人が乳がんになる計算になります。

現在の乳がん検診は40歳以上の女性を対象に視触診とマンモグラフィーと言う乳房のレントゲン検査をおこないます。マンモグラフィーはしこりがない、もしくはしこりになる前の乳がんを見つける事ができる“優れもの”ですが乳房を器械に挟んで圧迫検査するため時に痛みをとまなう事がありみんなに敬遠され、その事が受診率の向上を妨げている一因となっています。

痛みなくマンモグラフィーを受けるコツとしては、胸が張っているときは圧迫による痛みが強くなるため、はりが治まる生理が終わってから1週間ぐらいの間が一番痛みなく検査を受けていただける状態で、その時期に検査を受けると痛みが少なくてすみます。

また自治体が行っている検診によるマンモグラフィー検査は2年に1度しか受ける事ができないため、その間は自己触診による早期発見が重要となります。生理のある人はマンモグラフィー同様、生理終了から1週間の間、生理がない人は毎月だいたい日を決めて自己触診を行えばいつも同じ状態の乳房を触診でき、しこりがわかりやすくなります。(自己触診の方法は紀和プレストセンターのホーム

ページに載せていますのでご覧ください。)

乳がんは早期発見する事でほぼ100%治癒させることができます。ただし早期発見をするためには検診受診率のアップと自己触診の徹底が必要で、また早期乳がんの精密検査や治療には特殊な機器が不可欠です。

さらに治癒率向上に1番大事なのが精密検査と言われる乳房専門医のいる病院を受診する事だと思います。

私たち紀和プレスト(乳腺)センターは伊都、橋本、五條市で唯一乳腺専門医のいる施設で乳がん検診、診断、治療の全ての機器が揃った理想的な施設となっています。乳がんで大切な命を失わないためにも積極的に検診を受ける事をお勧めします。



センター長
梅村 定司 医師

和歌山県立医科大学卒業
日本乳癌学会専門医／マンモグラフィ読影A判定医師

医療法人南労会

紀和プレストセンター

和歌山県橋本市岸上23-1 TEL.0736-34-1255

紀和プレストセンター

検索